

市民フォト

No.11

鹿児島

昭和57年12月1日発行

ゴム板に何回も色を重ね、バレン
で懸命にまわしながらこする。真新し
い年賀状に来年のえど猪。

ごぶさたしている友の顔が浮かぶ。
(人物は浜田良子先生と市勤労婦
人センターの手づくり版画入門講座
生のみなさん)



私の作品



もくじ

私の作品.....

特集・萬古友好 永世和平 2
3

新たな歴史のページ開く 4 ~ 5
5

長沙市代表団見てある記 6 ~ 7
7

長沙市のことがお 8 ~ 9
9

人物登場(住吉三滋さん) 10 ~ 11
11

ぼくらの施設めぐり(市立美術館) 12 ~ 15
15

飛んで21年(中央公園付近) 16 ~ 17
17

市民のひろば 18 ~ 20
20

奥様こんにちは(瀬之口シヅエさん) 21
21

あなたのフォトサロン 22 ~ 23
23

谷山ふるさと祭 24 ~ 25
25

菊 薫る 26 ~ 27
27

わたしの散歩道(上之園町・中央町) 28 ~ 29
29

カメラトピックス 30
30

あの店この店(浅田錫器) 31
31

市立美術館(巴里娘) 32
32

すずわり

いしき小学校一年 こぼ ともあき

小学校はじめての大うんどうか
した。

い。それは、そうりつ九十しゅう
ねんの年でした。
ねんにまつた「すずわり」です。

この絵は、みごとにわれて、お
ともだちといつしょに、とびあが
つてよろこんでいるようすです。

みんないつしようけんめいがんば
つて、どんどんたまをなげつけま

特集

萬古友好 永世和平 ゆうこうとへいわいつまでも!



笑顔で交流—熊市長、ミス鹿児島、山之口市長



習字の手ほどきをする熊市長—坂元小で

おはら祭で、動物公園で、小学校で……。長沙市友好代表団の交流は行く先々で行われ、ほほえましい光景が繰り広げられました。本当に、さわやかで、おおらかで温かさいっぱいの素晴らしい皆さんでした。



子どもたちと手をつなぎ—平川動物公園で

新た歴史の一ページ開く

鹿児島市

中国・長沙市

友好都市に調印

新鮮で変わらぬ

友情を

山之口鹿児島市長

中国・長沙市との友好都市締結

調印式が十月三十日、市民代表など約二百五十人の出席者が見守る中で盛大に行われました。

山之口安秀鹿児島市長と熊清泉長沙市長が協定書に署名、ガッチリ握手し、末永い友好と親善を誓いました。その後、両市長

のあいさつ、友好旗の交換、宋之光駐日大使の祝辞などがあり、友の情の契りが固められました。



本日の友好都市の締結は、どこしえの友情と永遠の平和を求める両市民の願いを実現させるために大変意義深いことです。

数千年の栄光の歴史をもつ中国と日本は大変つながりが古く、中國から多くのものを学んできました。この友好都市の締結により、新鮮で変わらぬ友情に満ちた新しい歴史の一ページが開かれたと確信します。これを機に、両市民の善隣友好の輪が大きく広がることを期待します。



友好の木 大きく育てよう

熊長沙市長

のあいさつ(要旨)

この友好都市の締結により、両市の間に友好往来と友好協力の橋をかけ、広々とした前途を切り開きました。

「友好」という新しい木は、両市



山之口市長を表敬訪問

児島市・長沙市友好都市締結調印式



ガッチリと握手、友好のきずなも固く



ミス鹿児島から花束を受ける—記念祝賀会で



一行を拍手で歓迎—記念祝賀会で



茶薦さん姉弟の歓迎あいさつ



美しいハーモニーが雰囲気を盛りあげた—調印式で



蛇皮線演奏や踊りで歓迎—記念祝賀会で



祝辞を述べる宋之光駐日大使



森山議長の案内で市議会議場を見学



調印式で協定書にサインする熊市長と山之口市長

子どもたち代表のことば(要旨)

子どもたち同士も仲良くしよう

茶薦 晴子さん(長田中一年)
茶薦 旭 君(名山小六年)

中国にいるとき住んでいた瀋陽はとても良い所でした。今でも、時々、学校や友だちのことを思い出し、なつかしさで一杯です。今住んでいる鹿児島市もすばらしい所で大好きです。

鹿児島と長沙の人たちが仲良くしていくことは大変うれしいことです。そして、このことで日本と中国がもっと仲良くなることは本当にすばらしいことです。できれば、子どもたちの間でも友だちになれたらと思います。長沙の子どもたちに「仲良くしましよう」と、ぜひ伝えてください。

と両市人民が苦労をいとわず栽培し、入念に手入れをすれば、うつそうと生い繁る大木に育ち、きれいに開花し、豊かな成果をあげるものと確信します。両市民の友情が、どこしえに続くことを祈ります。

中国にいるとき住んでいた瀋陽はとても良い所でした。今でも、時々、学校や友だちのことを思い出し、なつかしさで一杯です。今住んでいる鹿児島市もすばらしい所で大好きです。

鹿児島と長沙の人たちが仲良くしていくことは大変うれしいことです。そして、このことで日本と中国がもっと仲良くなることは本当にすばらしいことです。できれば、子どもたちの間でも友だちになれたらと思います。長沙の子どもたちに「仲良くしまよう」と、ぜひ伝えてください。

「おはつまで

「桜島」から

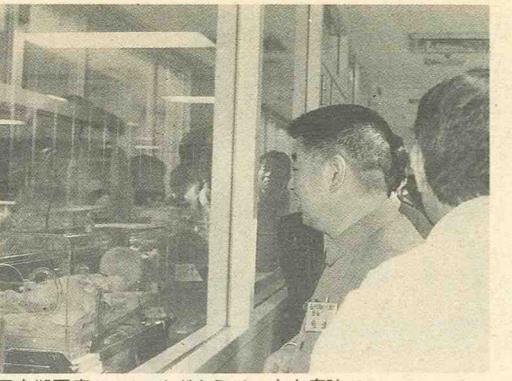
長沙市代表団“見てある記”

友好都市締結を終えた長沙市友好代表団一行は、おはら祭までの三日間、桜島を皮切りに市内各地と指宿方面を視察、鹿児島について熱心に学習する中で、多くの市民と温かい心の交流を重ねました。

おはら祭りでも楽しい踊りを披露された。市民の大きな拍手を浴びました。



中国人共同墓地を慰靈—唐漢墓地で



周産期医療センターなどを見学—市立病院で



お点前で一服—勤労婦人センターで



とても
研究熱心な方々



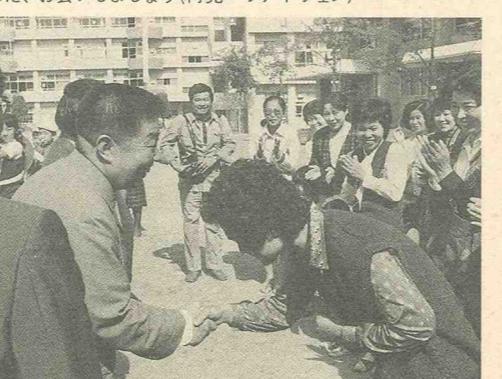
公平君もお出迎え—平川動物公園で



また、お会いしましょう(再見—ツアイ・チエン)



中国語の授業を参観—鹿児島商業高校で



父兄とも交歓—坂元小で

勤労婦人センターのいけ花教室で「ここにちは」と、きさくに熊市長さんに声をかけられ、何と親しく深い温かいお人柄なんだろうと思いました。市長さんと紅一点の蘇明さんが一枝挿され、温かい霽

いけ花のなかで熱い握手を交わしました。いけ花は中国渡來の藝術で、中國とは深いつながりがあるようですが、友好都市としての契りを感じ、花の心を通じて友好のお手伝いができ、とても幸せです。



ハッピ姿もりりしく—あいさつする熊市長



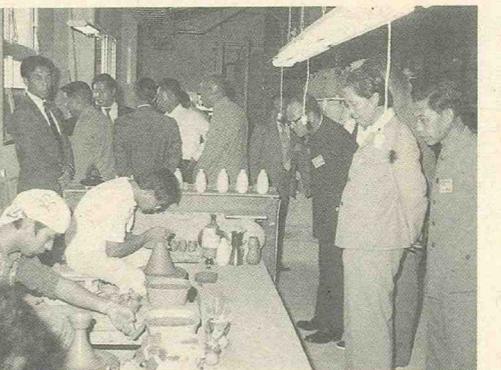
おはら祭でヨイヨイヨイサー



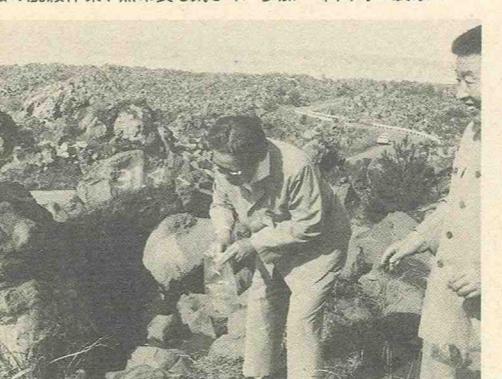
舞台上に勢ぞろいした一行



稲の脱穀作業、熊市長も気さくに参加—中山町の農家で



薩摩焼の製作を見学—錦江陶芸で



雄大な溶岩原の中で—桜島



多忙な日程をぬって、市電にも試乗



きさくな
熊市長さん

中山町(農業)…米森義文さん
脱穀作業の実演をお見せしたところ、専門的な鋭い質問に驚きました。とても研究熱心な方々で、熊市長自らコンパインを操作したり、すぐにうちとけて、外国人のみた

乳牛舎を案内した後、稻刈り、
したが、機会をみつけて、ぜひ向こうの生活や文化に接してみたいですね。

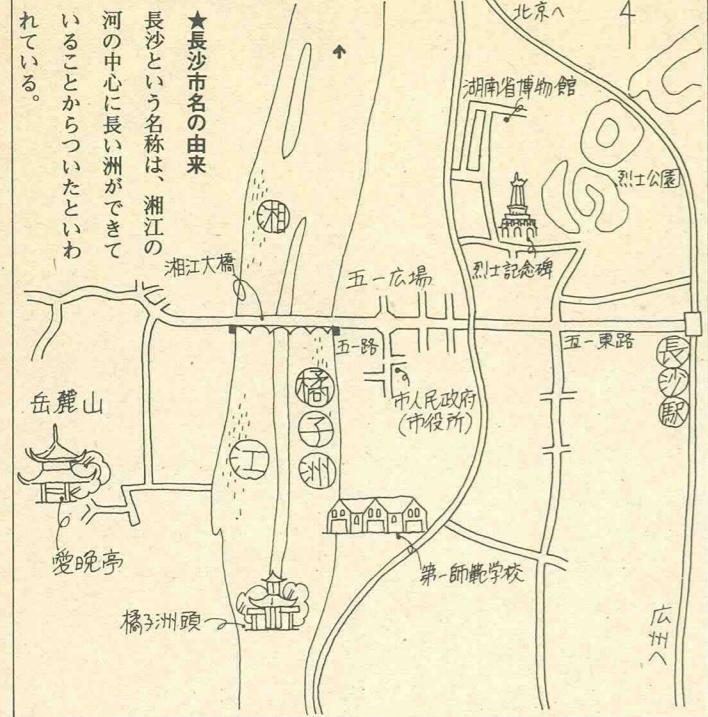
きさくな

中山町(農業)…米森義文さん

いな気が全くしませんでした。

どこにいても、いろいろ話されましたが、機会をみつけて、ぜひ向こうの生活や文化に接してみたいですね。

長沙市の市街(概要図)



プロフィール 長沙市のよこがお

長沙市は面積二八平方キロメートル、人口一〇五万人を擁する湖南省の省都です。国内交通の中継地点でもあり、北京や上海と空路で結ばれ、鉄道や水路の便も発達しています。

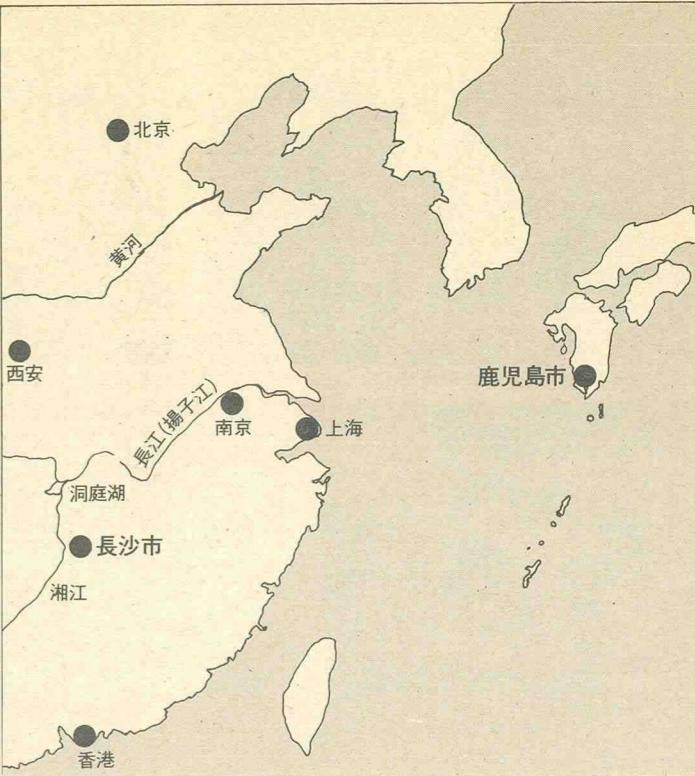
奄美大島本島南部と同じ北緯二八度にあり、平均一七・二度。雨量も多く、水や肥沃な土地に恵まれた中国屈指の穀倉地帯で、農産物等の集散地として栄え、また、湘繡と呼ばれる刺繡、陶磁器、織物等の工芸品は豊富多彩です。

三千年の歴史を持つ町で、出土

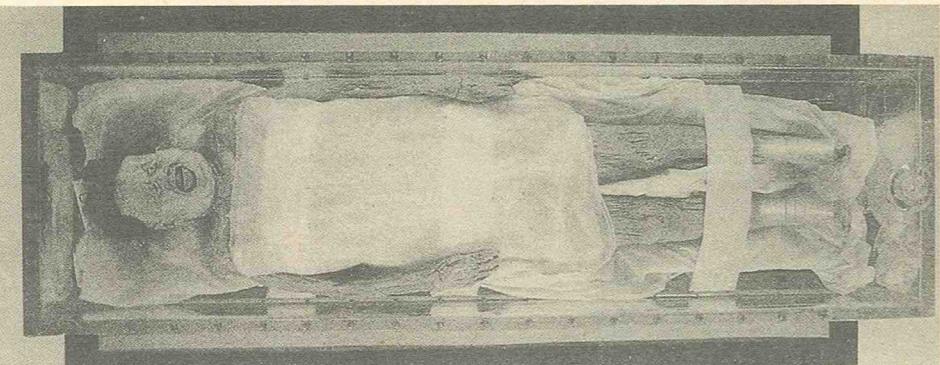
品も多く、特に市東部の馬王堆漢墓遺跡から発掘された二千百余年前の貴婦人の遺体は完全に近い姿で、世界の耳目をあつめました。

古くは楚の詩人屈原を生み、近くは毛沢東をはじめ、新中国誕生に尽くした要人たちのゆかりの地であります。

市の中央を貫く幅一キロメートルの湘江は中国第二の洞庭湖に注ぎ、長江へと連なっています。市内には橘子洲頭・烈士公園など景勝の地も多く、岳麓山からは市街地を望むことができます。



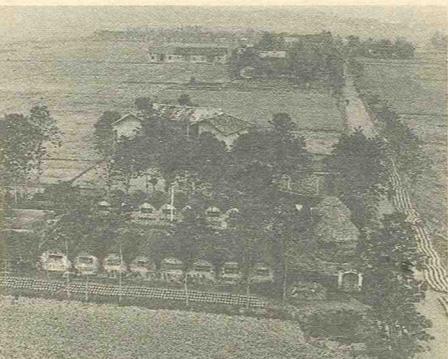
湘繡と呼ばれる刺しゅうは長沙の伝統産業で2000年の歴史を刻む。刺しゅう工場



1972年、市東部の馬王堆遺跡から発掘された前漢の長沙国宰相利蒼夫人の遺体



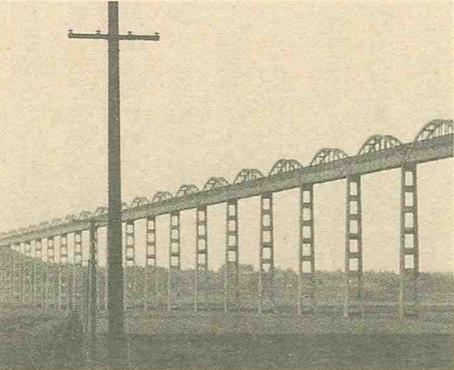
湘江の中洲(全長5km、幅300m)の上流側突端にある橘子洲頭公園



広い大地の中、集落をなす春華山人民公社の農家



鄧副主席来日の折、皇室などに贈られた磁器の食器がつくられた製磁器工場



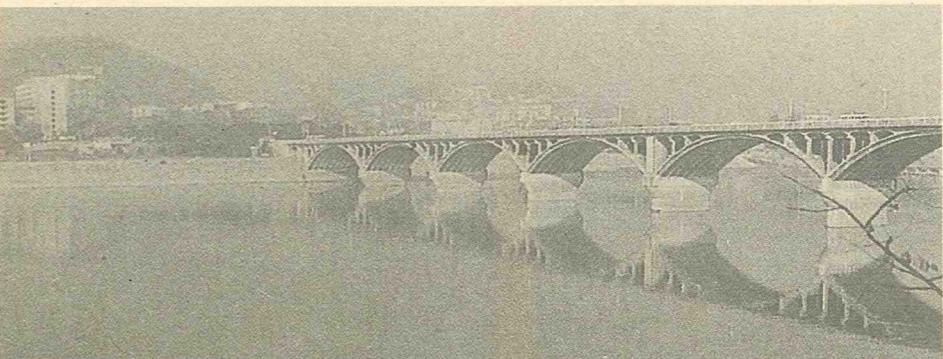
広大な水田のかんがい用水路として人民公社が建設した大水路橋



国営が主体の中国でも、余分に生産できたものは市場で自由に売買されている。自由市場



中国第二の規模で偉容を誇る長沙駅



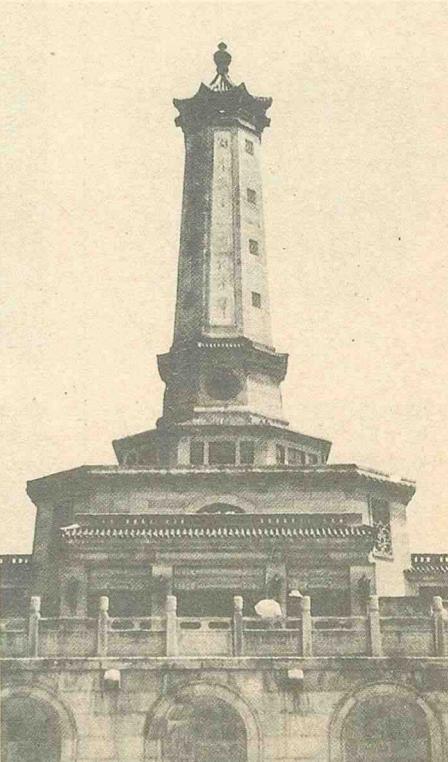
市の東部と西部を結ぶ全長約1,300メートルの湘江大橋



岳麓山の山裾にある愛晚亭



人や自転車など往来の多い五一広場



記念塔や省博物館、小動物園などのある烈士公園



若き日々、毛沢東が学んだ第一師範学校

人物登場

「合唱は、指揮者と歌い手の心のふれあいの場」。鹿児島独自の音楽確立を目指す。



撮影/水谷 進

一日が音楽で始まり、音楽で終わるという“音楽ざんまい”的毎日。「道楽ですよ」と謙そんするが、音楽に対する情熱がヒシヒシと感じられた。

●鹿児島女子高校教諭
住吉 三滋さん

日置郡東市来町出身。昭和三十三 教諭へ。鹿児島市下伊敷四丁目三十一年、鹿児島大学教育学部音楽科卒業 同年、鹿児島鹿屋第一中学校教諭。の四人暮らし。四十六歳。

高校音楽部をはじめ、ママさんコラス、一般の合唱団などの指導に当たり、オペラ出演、リサイタルなど多彩な活動を展開している。

ふだん話すときは、ヌーボーとした表情で淡々としている。しかし島混声合唱団の指導も。鹿児島短

一億総スポーツに劣らず、老いも若きも今やコーラスグループに参加、合唱活動が盛んだ。下は幼稚園児、保育園児から、平均七十歳という高齢者のコーラスグループまで今年鹿児島市内にできた。

今回登場の住吉さんは鹿児島女子高校音楽部をはじめ、ママさんコラス、一般の合唱団などの指導に当たり、オペラ出演、リサイタルなど多彩な活動を展開している。

し、一度、合唱指導の段になると

「それでも歌っているつもりか」「もつと腹を引き締めて歌わんかい」とベランメ工調。相手がかわいい乙女であっても容赦はしない。また指揮している時もタクトをダイナミックに振り、その表情も豊か。

鹿児島女子高校音楽部の指導のほか、女性合唱団「ブルニエールブルンシユ」、ママさんコーラスの「めぐみコラス」、「合唱団さつま」、「鹿児島混声合唱団」の指導も。鹿児島短

目はランランと輝き、語氣も荒い。

筆すべきことは、本県勢としては初めて昭和四十七年全日本合唱コンクール(高校の部)で鹿女子が一位に、また、五十二年にはブルニエルブルンシユが同コンクール(一般

の部)で第一位に輝いていること。これら活動が評価され、昭和五十七年度の県芸術文化奨励賞を受賞した。

音楽を始めたのは小学校の頃から。その当時、兄弟で仲良くハーモニカを吹いていた。しかし、家が農家で、音楽を続けていくには“それなり”的苦労があった、とう。いい先生に恵まれ、音楽の素晴らしさを知り、ここまで続けてこれた」「本来は寂しがりやなんですね。しかし、音楽を通じて良い仲間ができ、時には教えられ、助けられたりしました」。

合唱の良さ、おもしろさは――。

「手軽にでき、居ながらにしてアメリカなど世界の思想に触れることができる。合唱指導では生徒たちとの心のふれあいができる。そのなかから、一人一人の人生経験が歌声にこめられ、一つになつたときは素晴らしいものになります」。

趣味は音楽というほど、どっぷりつかりきっている。今やっている鹿児島の音楽に立脚した音楽をやつていきたい」と抱負の弁。年齢も

「熟年」の真っ最中。本県音楽界のレベル向上のために、まだまだがんばつてもらわなければ。

文/牧之内 政美

鹿児島新報社記者



絵や彫刻を通じて市民の心を豊かに



敷地内には持明院様の石像も…



鶴丸城の跡を思わせるかのように石垣に囲まれている

付近には仁王像と旧薩摩砲台火薬庫跡の碑も…

そこには、思わず見とれてしまふような絵や、手でさわってみたくなるような彫刻がいっぱいござつてありました。館長先生の話によると「日本を代表するようなりっぱな絵があり、見に来る人も多いですよ」とのことでした。

この美術館も近くとりこわされてしまうのだそうです。できることなら、今の美術館をそのまま残して、新しく別に作ればいいのにと思います。でも、鹿児島の美術をもつともっとさかんにして、一人でも多くの人にみてもらいためには、新しく造りなおさなければならぬのかも知れません。

わたしたち市民の美術館、長い間、わたしたち市民一人ひとりの心を絵や彫刻を通じて豊かにしてくれてありがとうございます。あなたの心はきっと新しい美術館にひきつがれることででしょう。なごりおしいけれど、あなたが新しく生まれかわる日を楽しみに待つことになります。

ぼくらの施設めぐり 市立美術館

文／是枝 博昭・唐鎌 洋子(松原小6年)



美術館は緑におわれ、城山の下にたたずむ

鶴丸城の二の丸城跡に建つ市立美術館。二十八年の歳月に終止符を打ち、新しく生まれ変わろうとしています。

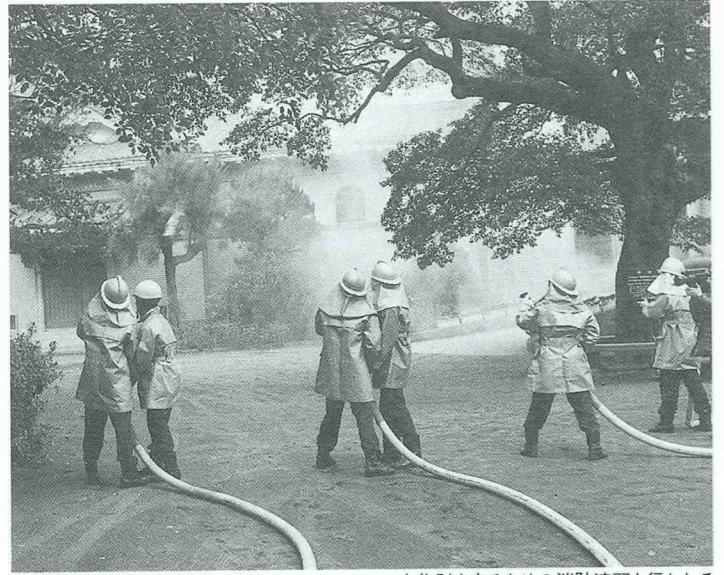
美術館の閉鎖を前に、松原小六年、是枝博昭君と唐鎌洋子さんに見学してもらいました。



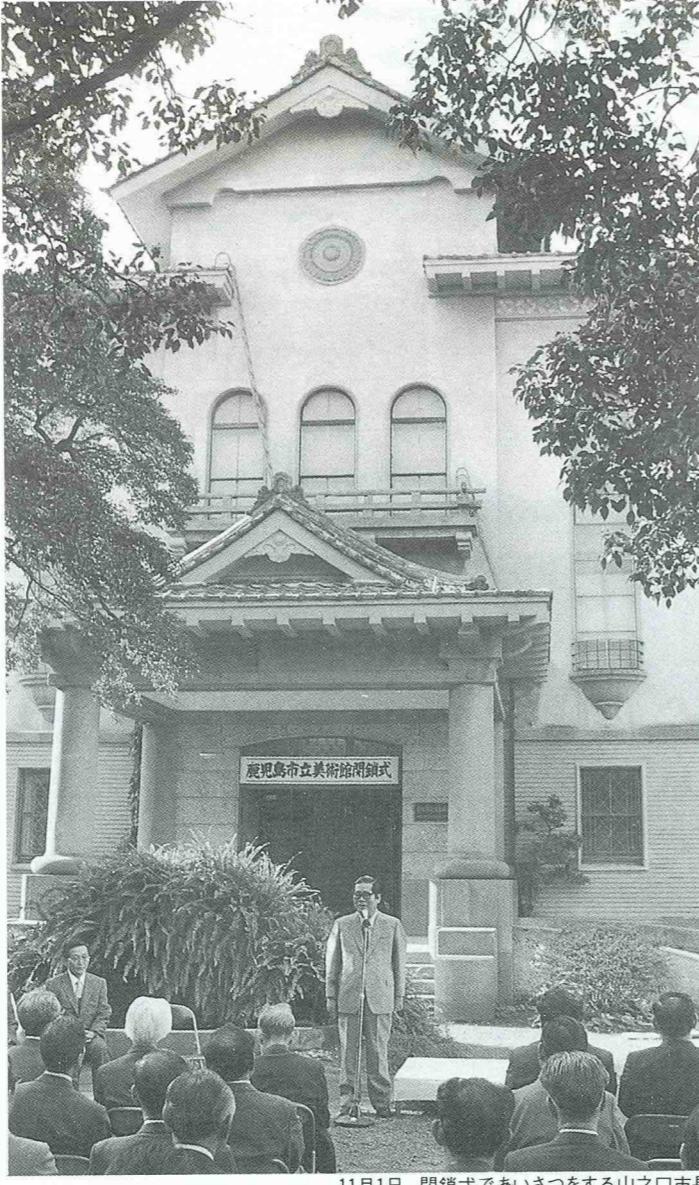
四藏館長に説明を受ける是枝君と唐鎌さん



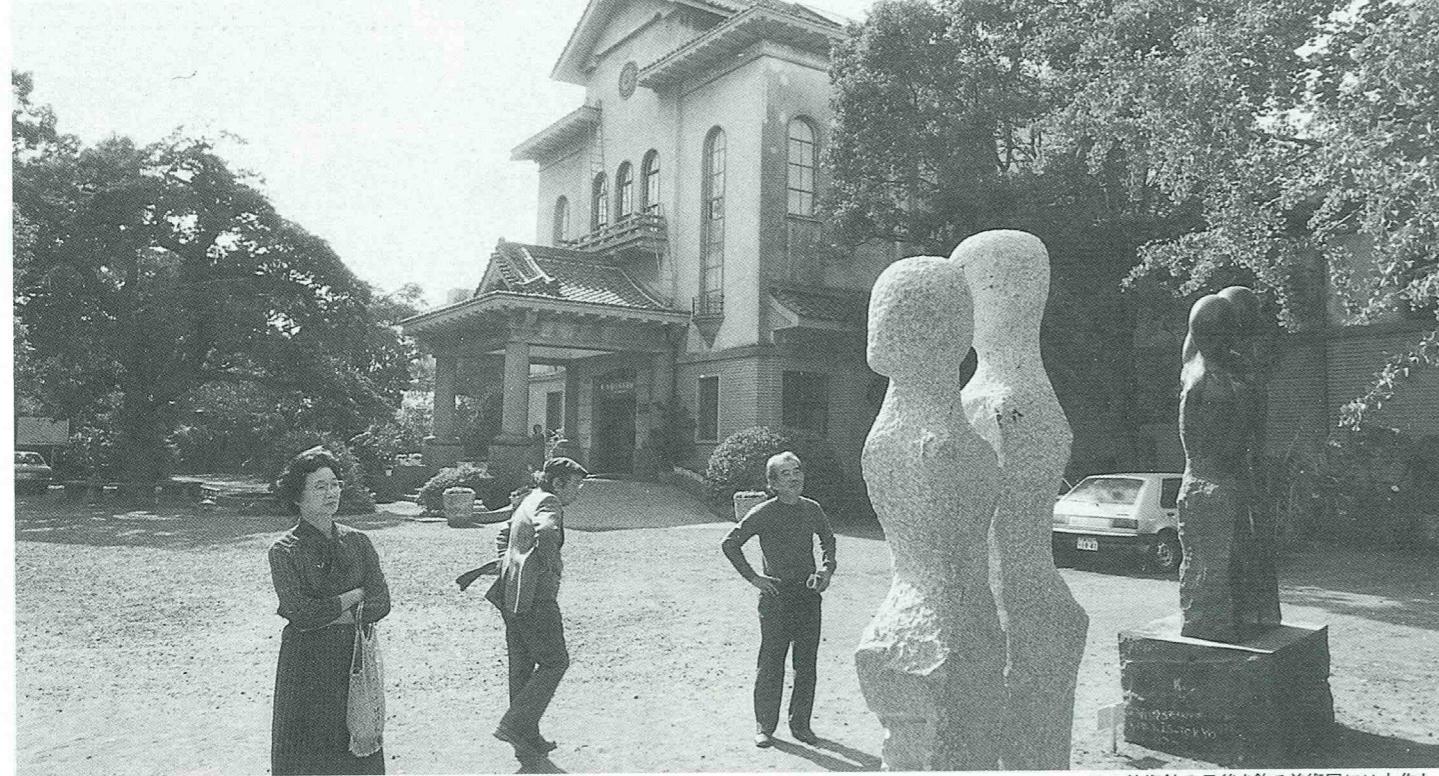
是枝君と唐録さんに説明する四藏館長



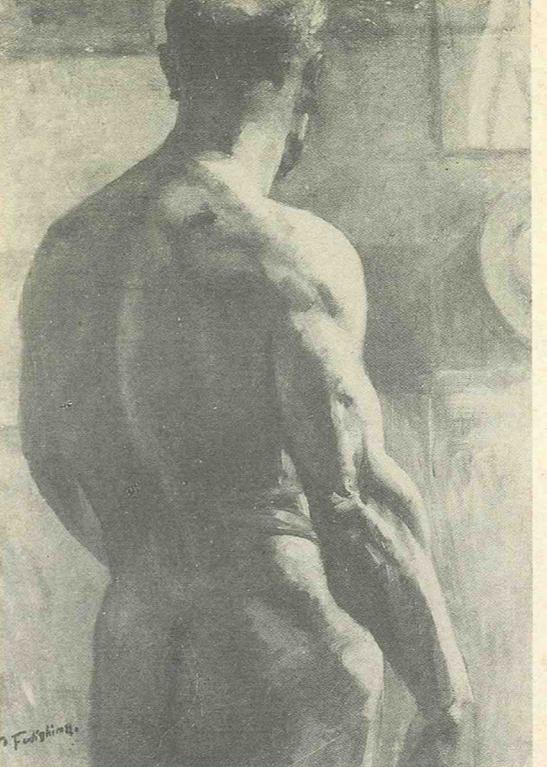
文化財を守るために消防演習も行われる



11月1日、開館式で挨拶をする山之口市長



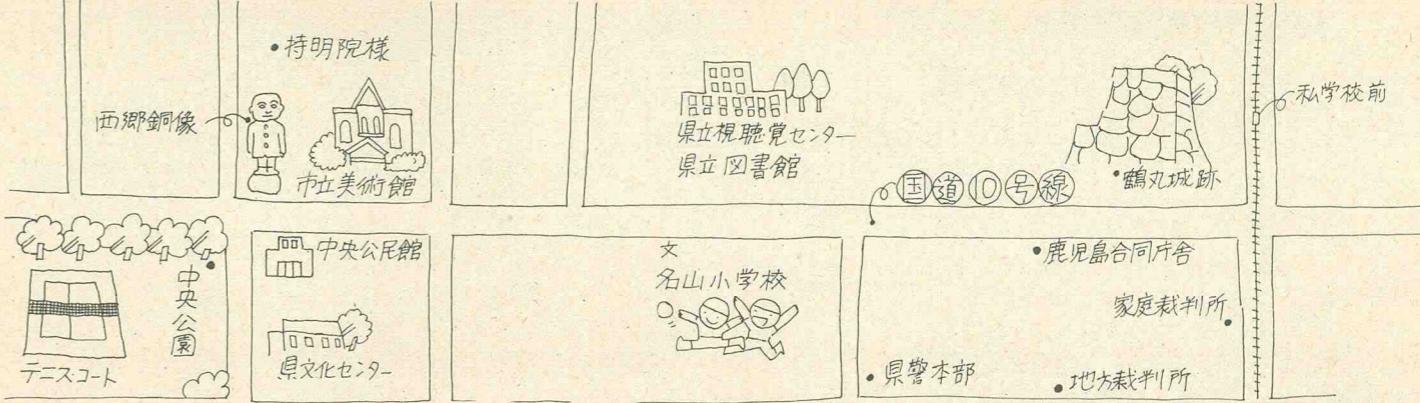
この美術館の最後を飾る美術展には大作も…



藤島武二の滞欧時代の力作「裸体習作」



すぐれた作品が展示され、多くの市民でにぎわう



講師を招き、洋画講習会も開かれる

昭和36年

飛んで21年

●昭和57年

空から見た街の表情



中央公園付近

ビルラッシュの影響で一帯の旅館はほとんど高層化し、多くのマンションが出現。

当時、県文化センターはなく、底床式の公園で人びとが散策していた。照国神社の齊鶴と呼ばれるイヌマキもない。境内で行われていた“おはら祭”的総踊りは電車通りに舞台を移し、県立図書館も昭和五十五年に鶴丸城跡に新築移転、跡は博物館に。

五十七年、西本願寺の本堂が落成、市立美術館も六十年オープンを目指し、最近閉館した。時の流れは早い。



撮影/水谷進

調印を前に

長沙市との友好都市締結

今年は日中国交正常化十周年。この記念すべき年に、鹿児島市と中国長沙市との友好都市の締結が本決まりになりました。

そこで、ゲストの皆さんに中国との友好促進の意義についてまた、今後の交流のあり方などについて語り合っていただきました。留学生の高さんを囲んで、スタジオは一足早く日中友好のムードが高まりました。

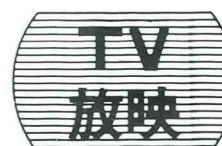
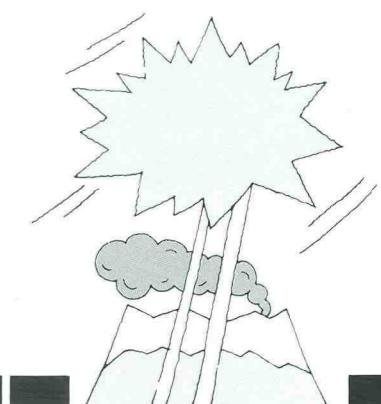
出席者(敬称略)

鹿児島市長
山之口 安秀
鹿児島経済同友会代表幹事
司会
高島 康子

鹿児島大学留学生
高 小捷
鹿児島山中学校PTA副会長
矢野 宣江



市民のひろば



「市民のひろば」は、MBCから放送されます。放送日時は、毎月第三日曜日を除く、日曜日の午前八時から十五分間。ただし、第四曜日は三十分間放送。



●市長

高島 高さんは中国からの留学生でいらっしゃいますが、最近は、日本と中国のいろいろな面でのおつきあいが盛んになってきていますけれども…。

●外國にいるという気がしないんです

お互いに言葉は違いますが、字を書けば、何となく意味は分かりますし、鹿児島の人びとは礼儀正しく親切ですね。

高島 私には、あまり、日本人が外国人だという気がしないですね…。

高島 鹿児島にいらして一年半ぐらいいというのですが、こちらで生活されての感想はいかがですか。

高島 うど春でしたから、道いつぱいにツツジの花が咲き乱れてすごく印象的でした。

高島 そうですね。日本と中国は本当に一番近い国ですし、お互いに交流を深め、理解しあうことは大事なことだと思いますね。

高島 鹿児島にいらして一年半ぐらいいというのですが、こちらで

事なことだと思いますね。



●海江田さん

●海江田さん

●海江田さん

する中国の並々ならぬ意欲をビシヒシと感じましたね。しかし、現在の中国では電力、エネルギー、技術とか、資材の協力が必要じやないかなとも思いました。

高島 市長さん、訪中団の皆さん

のこのような交流がキッカケとなりはもちろん、日本よりもかなり厳しくしつけているように思いました。

高島 私は、父が満鉄に勤めていましたので、生後七歳まで中国で育ちました。あちらにまいりまして、ふるさとの香りというか、大変なつかしいといった感じでいっぱいでした。それから、国土の広さ、河の流れの雄大さ、澄みきつた青空を目の当たりにしまして、このようなすばらしい環境が、いわゆる大陸的な人間を育てるんだなあと実感いたしました。

高島 そしてこの訪中団の派遣ということになつたわけですが、早速三月には長沙市からぜひ締結したいという手紙が届きました。七月には王克儕副市長ほか三人の先遣使節団の来鹿ということになりました。

高島 鹿児島の政治情勢とか、経済情勢の観察や市民との交流をしていただいたわけです。その時に「日中友好には、お互に努力していくね。

いたる所での
「熱烈歓迎」に感激

高島 お隣のお二方は昨年の十一月、鹿児島市の友好親善訪中団の一員として中国へいらしたということですね。中国の印象、また、思い出話などをお聞かせいただきたいと思いますが…。

海江田 私は昨年初めて中国へ行つたのですが、ジェット機ですと

正味二時間足らずということで、距離の近さを改めて感じました。

高島 それから、向こうでは上海、南昌

長沙、北京と四つの都市を回りましたが、いたる所で、人民政府は

もとより市民の各層の方々から大

変熱烈な歓迎を受け、感激いたしました。

高島 日中両国民は、今後、子々孫々

まで仲良く手を結んでいかなければ

ならないなあと、現地で実感し

た次第です。

それから、私は経済界の代表とい

うことでしたので、中国が取り組

んでいる農業・工業・国防・科学

技術の「四つの近代化」がどのように進んでいるかということに関心

がありました。人民公社や工場等

を訪れまして、これらの促進に対

はどのような教育をされているか

を感じました。また、中国で

ましよう、それから「両市の間に経

済、文化、科学技術の発展のため
に人の交流をしましよう」と、いう

ことを確認して帰られたわけです。

締結の時期についてもぜひ「おはら祭」の前にといふことで、三日十日が調印式という運びになりました。

高島 高さん、今回、お国の長沙市との友好都市のお話が決まりました

のですけれども……

高島 私が鹿児島滞在中に、このようなおめでたいことになつたといふことで大変うれしく思います。

友好都市になると、長沙市との行

き来もひん繁になるでしょうし、楽しみですね。



●高さん

いわれております。中国でも指折りの古い都市でございまして、位

付近になります。中国では少し奥地に入りますが、いろんな点で鹿

児島と共通点があるようです。ま

ず、自然環境では鹿児島も東洋のナポリといわれますが、それに劣らず非常に景色の美しい所です。

長沙市の真ん中に湘江が満々と水

をたたえて悠然と流れています。

また、市の西側に岳麓山という低

い丘がありまして、その中腹に愛

晚亭という清朝時代の建物が残っ

ており、ここが市民の格好の憩い

の場所となっています。それから、

鹿児島は西郷、大久保といった維

新の元勲を輩出した土地柄ですが、

長沙市も中国では人材の豊庫とい

われておりまして、古くは楚の愛

国詩人屈原を生んでおり、現代で

は毛沢東をはじめ、たくさんの中

国革命の指導者というのがこの地

で育ちました。互いにそん色のな

い友好都市としてふさわしい都市

だと思いませんね。

矢野 長沙のまちはとても整然と

して、本当に明るい感じといいま

すが、土地の方々の人柄とか、生

活態度がそのたたずまいに表れて互いの友好を深め温めあう努力と

いるような気がしました。

また、歴史の重みを感じさせる

所で伝統工芸も盛んです。製磁器

や刺しゅう工場を見せてもらいま

したが、作品のすばらしさにはビ

ックリいたしました。鹿児島にも

スラスラと自然環境では鹿児島も東洋の

ナポリといわれますが、それに劣

らず非常に景色の美しい所です。

長沙市の真ん中に湘江が満々と水

をたたえて悠然と流れています。

また、市の西側に岳麓山という低

い丘がありまして、その中腹に愛

晚亭という清朝時代の建物が残っ

ており、ここが市民の格好の憩い

の場所となっています。それから、

鹿児島は西郷、大久保といった維

新の元勲を輩出した土地柄ですが、

長沙市も中国では人材の豊庫とい

われておりまして、古くは楚の愛

国詩人屈原を生んでおり、現代で

は毛沢東をはじめ、たくさんの中

国革命の指導者というのがこの地

で育ちました。互いにそん色のな

い友好都市としてふさわしい都市

だと思いませんね。



●矢野さん

いいますか、工夫が必要じゃないかなあと思います。

かなかあと思います。

所で伝統工芸も盛んです。製磁器

矢野 私もまつたく同感ですね。

それに、パース市ともいろんな交

換留学生の制度がありますが、長

沙市との間にも、そういう交流を

は大切なことですし、それを将来

に実らせたいと思います。

高島 高さんはあと二年半、鹿児

島にご滞在ということですが、こ

の間に、何かこれだけはやってみ

くりたいと思います。

高島 やっぱり、自分の専門の勉強

を一生懸命頑張りたいと思います

ね。それに、友だちもたくさんつ

いて、本当に明るい感じといいま

すが、本当に明るい感じといいま

すが、本当に明るい感じといいま

すが、本当に明るい感じといいま

すが、本当に明るい感じといいま

すが、本当に明るい感じといいま

すが、本当に明るい感じといいま

すが、本当に明るい感じといいま

すが、本当に明るい感じといいま



●高島さん

たときまして、大変、実りのある

対談があつたと思います。今年は

日中國交正常化十周年ということ

で、この記念する年に長沙市との

友好都市が締結されることは非常

に意義深いことだと思います。三

十日に調印式を終えて、二日、三

日のおはら祭には熊市長さんはじめ全員が参加されることになつて

ます。新らしい交流の門出を市民

みんなで心から祝つていただきま

す。

高島 皆さん、今日はどうもあり

いと願っています。よろしくお願ひし

がとうございました。

奥様こんにちは

婦人補導員 濑之口 シヅエさん

「以前、大阪から家出してきた十七歳の少年を保護しましたが、迎えにきた父親に向かい『あなたは何しにきたんですか』と息子が言うのを聞いたとき、涙の対面を期待していた私は、今まで、もっと心のかよう方法はなかったものかと、親子の隔たりに胸を痛めたこともあります」と語る表情に深い愛情が秘められている。

学校卒業後三年間教職につき、引き続き婦人補導員として十八年。常に青少年の非行化防止や育成に力を傾ける。電話サービスは、学業・進路・異性についてなどが多く、なかには小学一年生から相談を受けることがあるとか…。一時間を超える深刻な相談の場合もあるというが、「その苦労は一口には語れない」とも…。さすがに語り口が柔らかで、これなら、電話で話すうちに悩みも消えてしまいそう。

「最近、印象に残った本は高田好胤の『母』ですね。母への感謝とと

もに、親子の対話、自分の生活態度について考えさせられましたねえ…」どうも仕事と実生活を切りにきたんですか」と息子が言うの離すのは不可能のようだ。

ただいま「子育て」の真っ最中。愛娘・牧子さんのしつけにも仕事柄、神経質になり過ぎないようになると気を使う。最後に「あくまで、子供を守りきれるのは家族の愛情ですよ」と、温和な顔がほほえんだ。



あなたの

谷山ふるさと祭

谷山ふるさと祭

谷山ふるさと祭は今年で三回目。

起こる。

ふるさと祭は、地域の人々が知

り合い、交流を深める絶好の機会

ふるさとを愛する気持がこんな行

事への参加で育くまれることを期

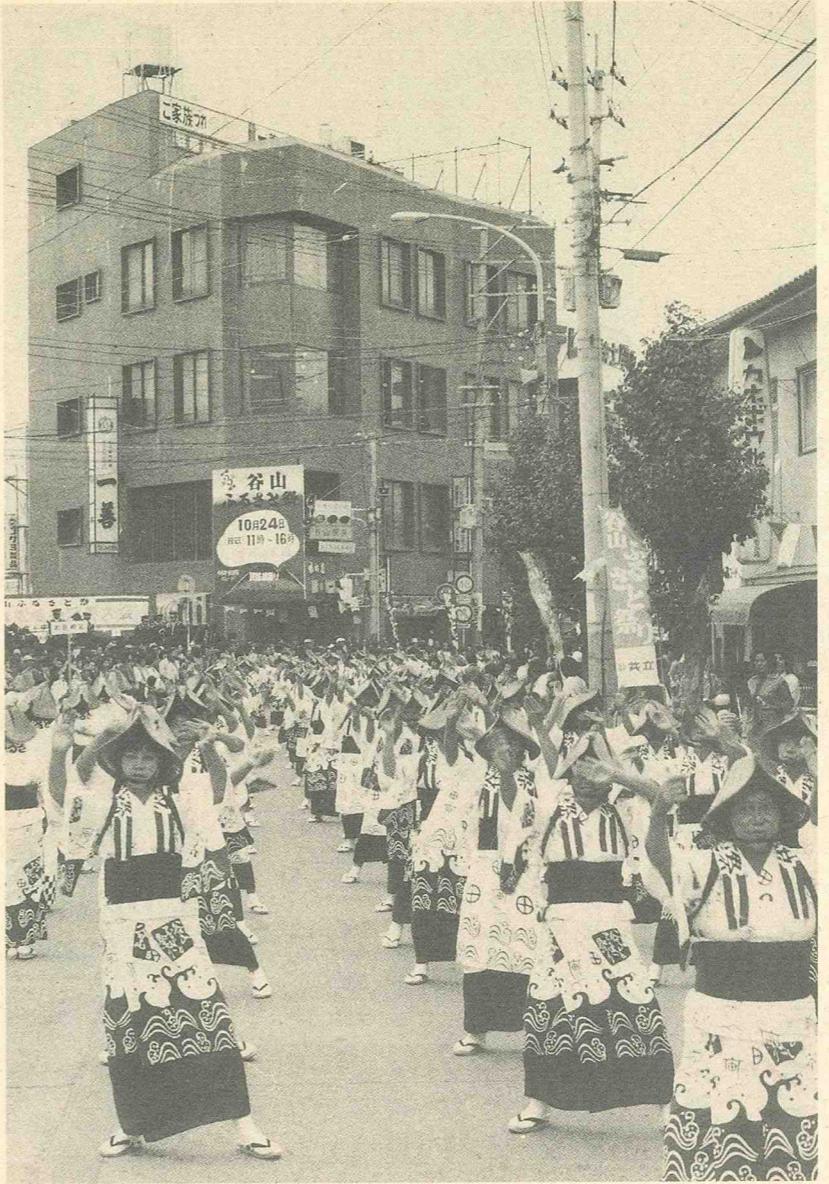
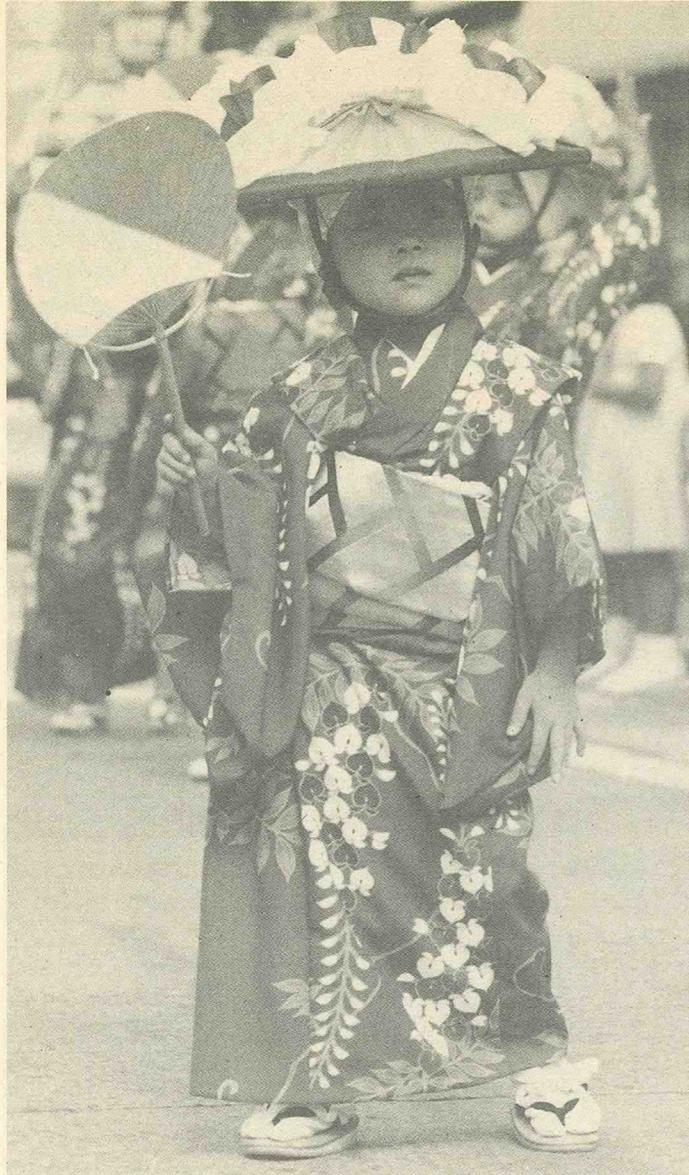
待したい。

約四千人の踊り手が繰り出した。

顔なじみの踊り連をみつけては「ヨカフジヤガ」「キバイヤイオ」の声援がとび交う。ほお紅、口紅の薄化粧にはつび姿、浴衣姿の子ども連には、ほほえましい視線が注がれる。郷土芸能、山田町の虚無僧

写真と文／芦沢 千歳

下福元町四九二八



菊薰る

秋が深まるにつれ、菊がその美しさを増してきます。

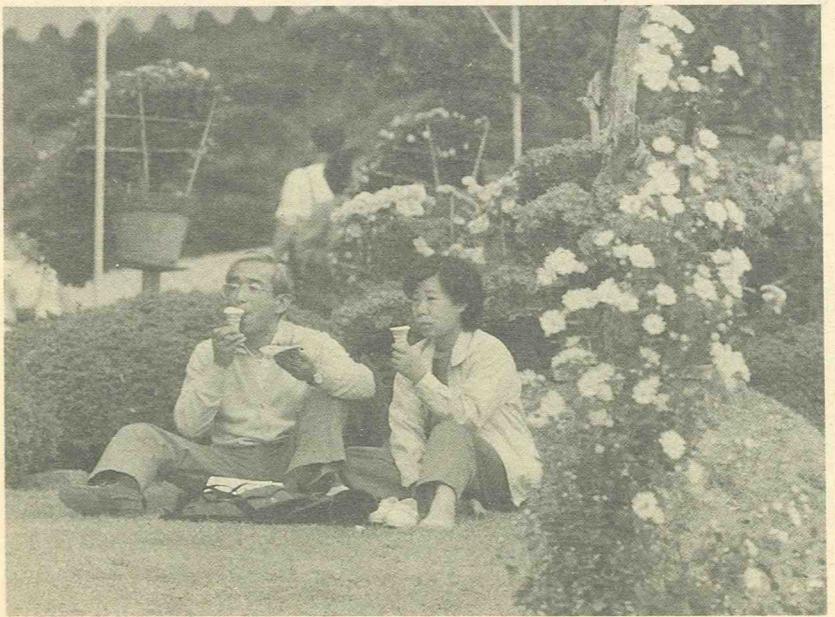
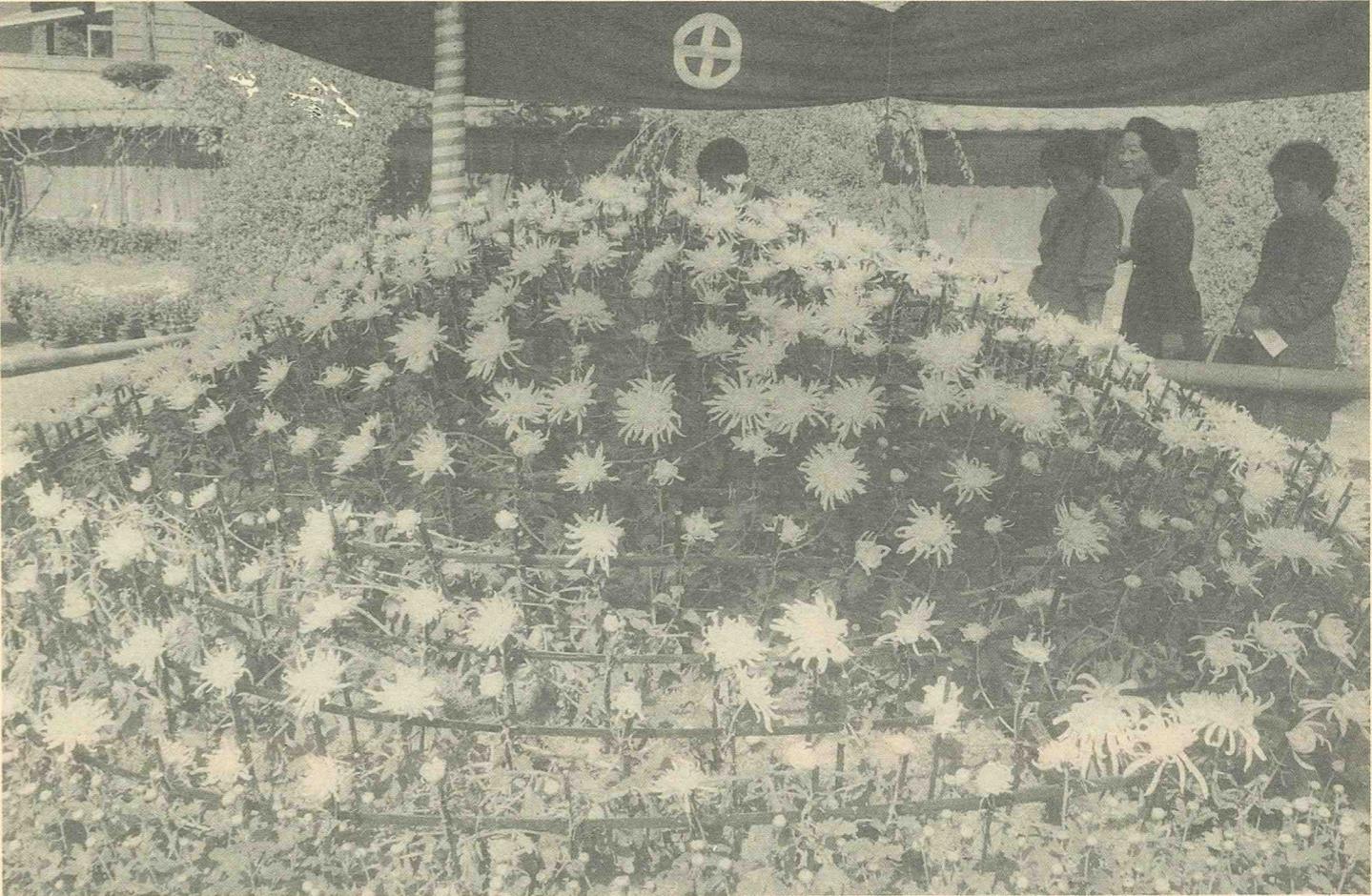
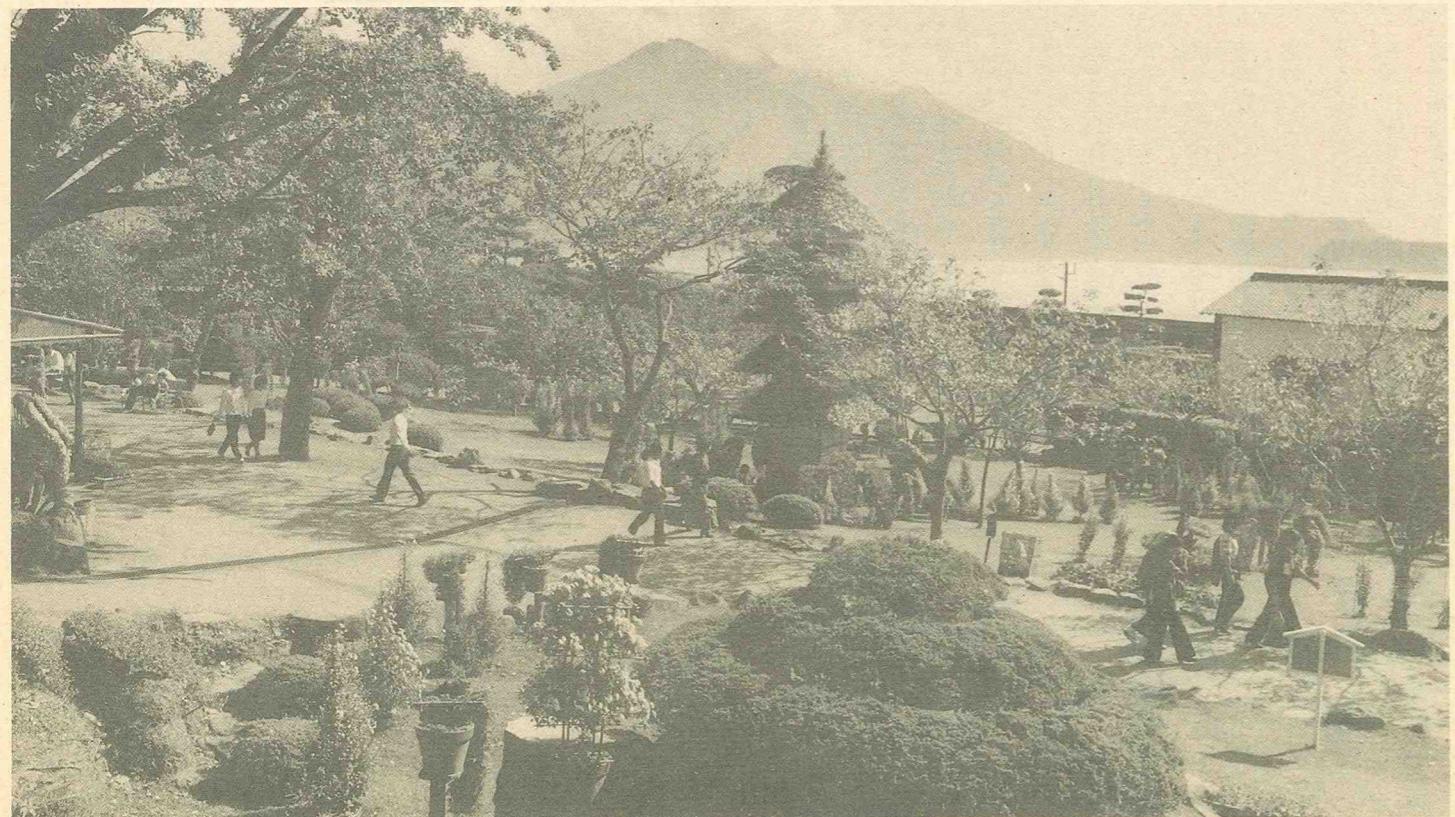
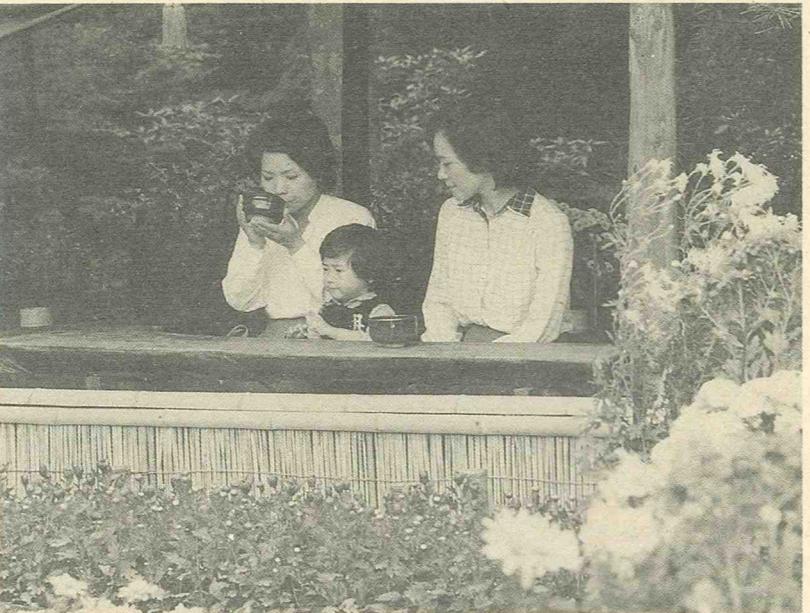
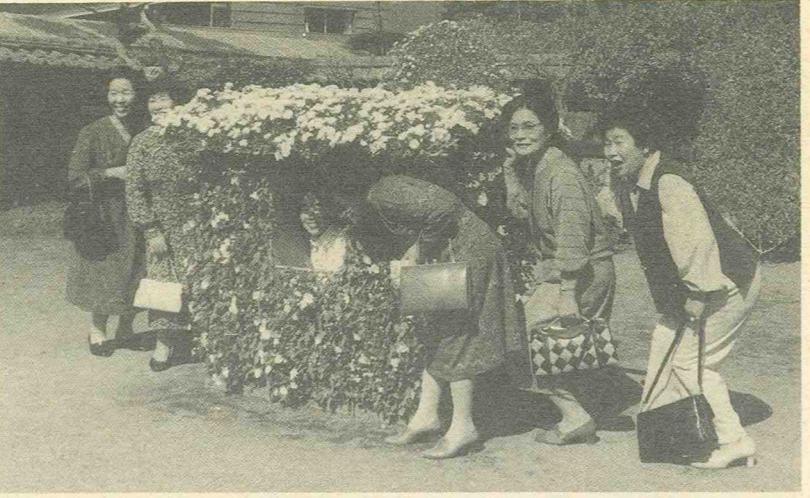
磯庭園でも「菊まつり」が行われ、六千鉢余りの菊の花が趣向をこらして市民の、観光客の目を楽しませています。

芝生の上でお弁当を広げながら菊をながめる家族連れ、菊の香りにつつまれてお茶をたしなむご婦人方、数千の小菊の花でつくられたロケットや五重塔の辺りでは、歓声と記念写真のシャッター音が絶えません。人々は思い思いに秋を満喫しています。「菊まつり」が終われば鹿児島は冬です。

菊をながめる家族連れ、菊の香りにつつまれてお茶をたしなむご婦人方、数千の小菊の花でつくられたロケットや五重塔の辺りでは、歓声と記念写真のシャッター音が絶えません。人々は思い思いに秋を満喫しています。「菊まつり」が終われば鹿児島は冬です。

写真と文／実村 昭三

吉野町二二三五



上之園町・中央町

楽しく歩く——遊びを
書に表現できたら……

墨泉会会長 川上 南溟

気の向くままに楽しんで歩く——
そんな散歩が好きですね。

歩くのは一時間でも一時間でも
苦になりません。始めてから、もう
う十年以上になるでしょうね。今
日は、たまたま朝に……秋から冬
にかけてはほとんど夕方に出掛け
てますが……。

私が興味深く感じるのは、この
イチヨウの木の下を抜けたところ
にある昔の女子興業跡の碑文なん
です。そう、昭和二十年に焼けて
ね、一時は武小や甲東中に移った
り……。そして、三十一年に今の鹿児
島女子高になつたんです。
ここの中葉もいいけれど、この
門から坂を下つて、あそこまでの
空間が実にいいんですね。人
通りの少ない、ヒツソリと隠れた
ような所にあるからなんですね。七
十年も前からあつたわけですが、
昔の面影が少しでも残つてると、

思い出に奥行きが出来ますからね。
だから、きまつてここを通つてね、
甲突川に出るんです。

この高麗橋の歩道橋もいいでし
ょう? 川面に映る木々の影、あれ
がほんとにいい。夕焼けも素晴らしい
もよかつた。人が作れる色彩じや
ないですねえ。キャンバスをもつ
て描いている人もいますよ。夏に
は白サギを見かけますが、あの白
サギは、どこから飛んでくるんで
しょうかね。

こちらの方の桜島、光る眼鏡橋
もいいですね。ビルも適度に見え
て……。配置の妙といいましょうか。
ナポリ通りは春から初夏の頃が
最高。つづじとクスが映えて……。
朝市は活気に満ちてますね。庶
民のたましさ、明るさを感じて
ここを通ると元気が出ます。

とにかく、リラックスして楽し
く散歩するような姿——つまり、
遊びを作品(書)に表現できたら面
白いし、会心の作ができると思う
んですが。でも、なかなか難しい
な。

(談)

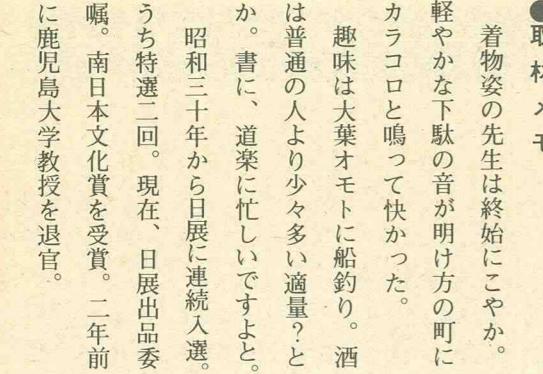


わたしの散歩道

●取材メモ

着物姿の先生は終始にこやか。
軽やかな下駄の音が明け方の町に
カラコロと鳴つて快かつた。

趣味は大葉才モトに船釣り。酒
は普通の人より少々多い適量? と
か。書に、道楽に忙しいですよと。
昭和三十年から日展に連続入選。
うち特選二回。現在、日展出品委
嘱。南日本文化賞を受賞。二年前
に鹿児島大学教授を退官。



8月21日・夏休み子どもとお母さんの施設見学会

夏休みの思い出を残し、親子のふれあいを深めようと、施設見学会には約150人が参加、福昌寺跡、少年自然の家などを見学しました。



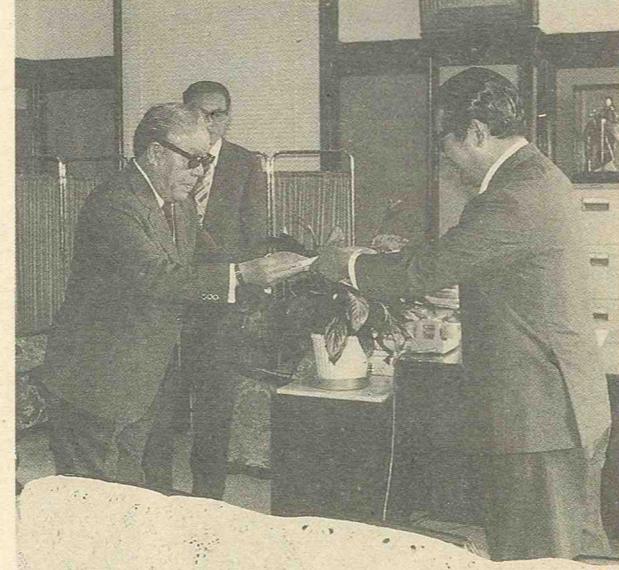
8月24日・ドカ灰、市街地を直撃

午後2時過ぎ、今年86回目の爆発。火山灰はザーザーと音をたてて降り、県庁では午後4時までに1平方メートル当たり約5.5キログラムが観測されました。



8月22日・甲突川クリーン作戦

甲突川の玉江橋から松方橋まで約4キロメートルにわたってクリーン作戦が行われ、約6,000人もの人が参加。約30トンのゴミが集まりました。

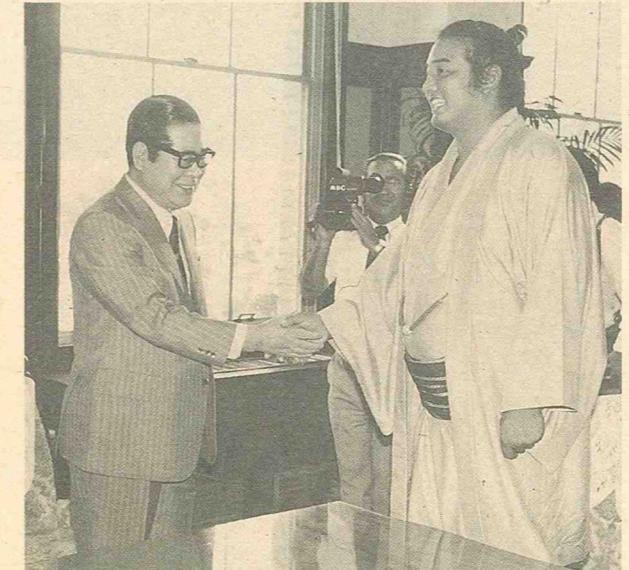


9月2日・市民文化ホールに彫金を寄付

開業35周年を記念して城山観光(株)保直次社長から山之口市長に彫金(日本芸術院会員・帖佐美行氏の作品)の目録が贈呈されました。

9月13日・小田原友志さん宅を山之口市長が敬老訪問

敬老の日を前に、山之口市長が山之口町の小田原友志さん(91)宅を訪問「100歳まで長生きして」と激励しました。

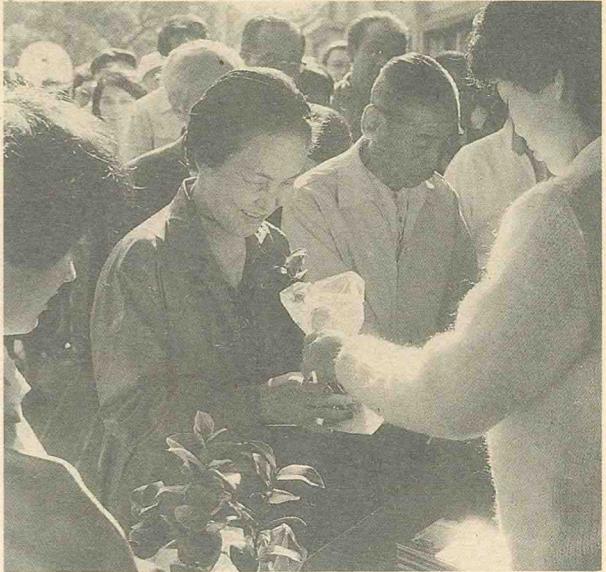


9月28日・関脇若島津関、山之口市長を表敬訪問

大相撲秋場所で12勝3敗の好成績を挙げ、敢闘・技能賞を獲得した関脇若島津関が山之口市長を表敬訪問しました。

10月26日・ツバキの苗木の無料配布

都市緑化月間にちなみ、ツバキの苗木700本を市民相談室の前で配布したところ、多くの市民がつめかけ、約20分間で苗木はなくなりました。



11月1日・福祉施設にリンゴのプレゼント

市内の福祉施設(約2,000人の児童)に「長野産のリンゴを役立てて」と長野県移出商業協同組合連合会からリンゴ150箱(5,400個)が贈られました。

あの店

この店

浅田錫器

樋之口町

どろどろに溶けた錫が木型に鋳込まれ、次々と形ができる。ろぐろで削り、磨く。鈍い光沢が柔らかい光沢へと変わっていく。「錫器の光沢は錫を溶かす温度加減で決まるんです。何十年やつても、これだけは微妙ですね」。ご主人の目は釜の中の錫の色の変化に注がれる。

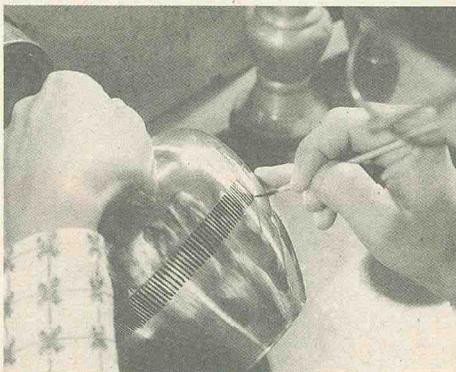
磨いたままの錫器、これを腐食させ、白い錫のまま仕上げた梨地肌、さらにいぶしたものと錫器のもつ、いろいろな表情には驚かされる。

薩摩錫器は薩摩焼、薩摩切子と

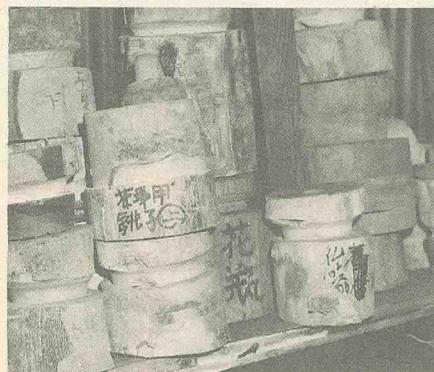
並んで鹿児島が育んできた貴重な工芸品、このお店ではその伝統技術が継承されている。



ご主人はこの道40年、研究熱心



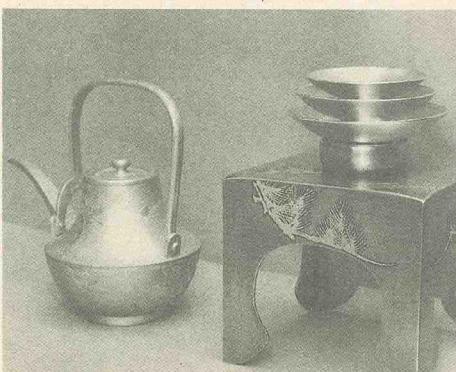
表面の絵は漆で描く



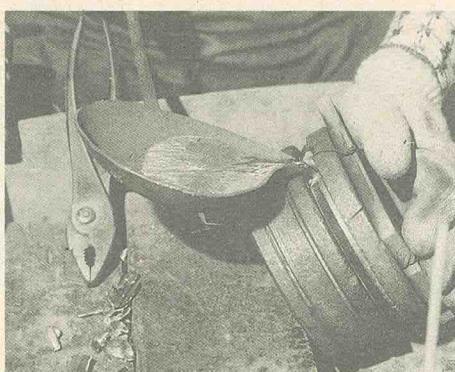
注文に応じて木型を作る



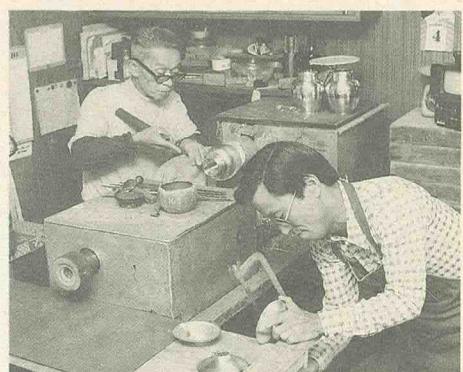
錫器の店は県内に三軒だけ



製品は酒器、茶器、花器と多種



鋳造は最も経験が左右する



後継者の息子さんも一人前の職人に

▼「市民フォト鹿児島」第11号をお届けします。
編集後記
▼「市民フォト鹿児島」第11号をお届けします。

▼何となく、あわただしいなど思つたら、いつの間にか師走、景気の回復が待たれます。ジングルベルの響きで弾みをつけてくれないかなー。呼び込みを消す雑踏はもう師走』正司。▼第11号では、中国長沙市との友好都市を特集しました。熊清泉長沙市長さんはおはら祭に参加されました。坂元小学校では小学生の手をとつて習字の基本を教えておられました。中山町では、自分で脱穀機を回されました。「地面にこぼれ落ちた稻穂は、どうやって回収するのですか」と質問されたそうですが、豊饒のなかの私どもは、何か大事なもの忘れているのでは……。一衣帶水の距離にありながら、今まで遠いように感じていた中國。しかし、友好代表団の方々がさわやかで、温かい長沙旋風を残して帰られました。中国との距離が一気に縮まつたようでした。再来、ともだち。



市立美術館

巴里娘

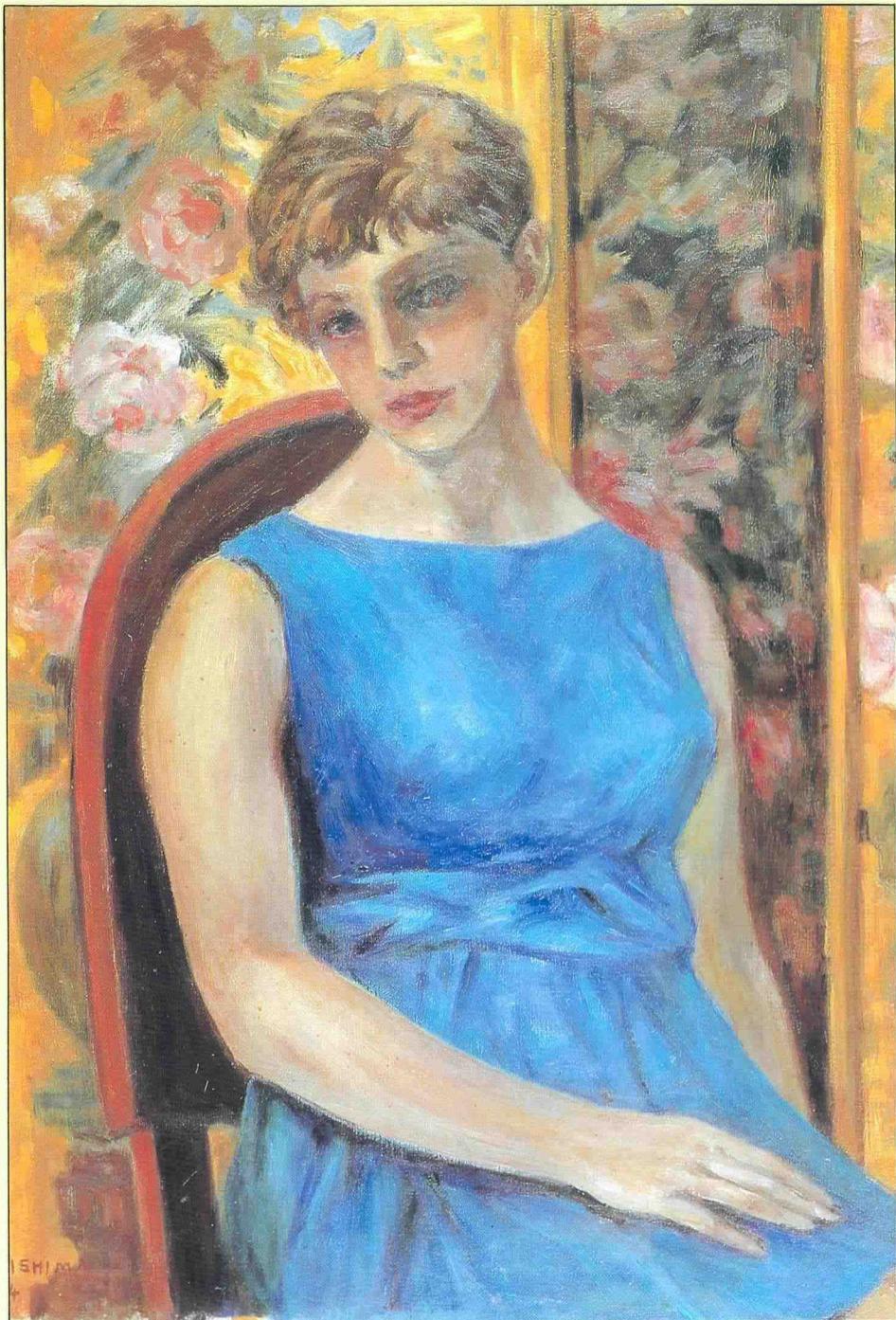
有島 生馬

〔作者〕明治十五年～昭和四十九年。旧薩摩藩士有島武の二男として横浜市で生まれ、兄武郎、弟里見淳とともに芸術家三兄弟と称せられる。明治三十七年、東京外国語学校卒業後、藤島武二について油絵を学び、翌年渡欧、明治四十

三年に帰国。「白樺」同人として、ヨーロッパ近代美術の新動向―特に、セザンヌの紹介者として美術史に名をとどめる。二科会、一水会を創立し、また、日展理事としてその卓越した指導力で多数の俊秀を育てた。

市立
美術館

館長 四藏典夫



〔解説〕昭和三十九年、八十二歳の高齢で渡欧、盛んな創作意欲を示したが、この作品はそのときの取材をもとに同年の第七回日展に出品したものである。

彼は長い画家生活を通じ、印象派および新印象派的作風を貫くが、晩年はさらに明るく骨太なタッチに磨きがかかってきた。この作品もその傾向の一つの典型を示しているが、花模様をいっぱいに散らしたびょうぶのような背景の前にかわいいパリ娘が椅子に腰かけている。何の変哲もないポーズではあるが、やや顔を傾けて見つめる大きなまなざしと輝くような肌の色がいかにも健康で、典雅な異国娘の美しさをよく表現している。

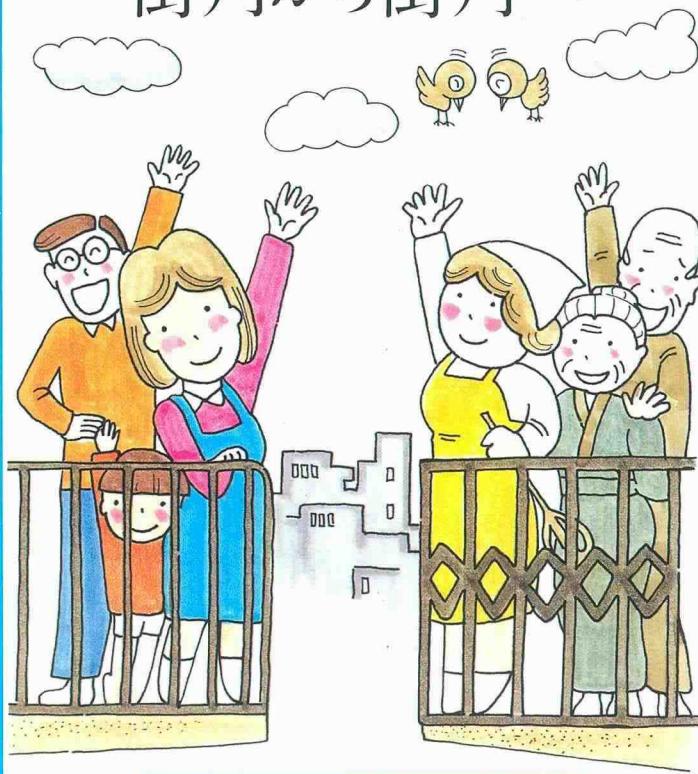
全体として、バタ臭い雰囲気の中に東洋的な感じも漂わせる得意の人格像である。この年、文化功労者としての栄誉に輝いたが、十年後九十一歳で没した。

明るくたくましく 健やかに



冬の青少年を育てる運動 ●12月15日～1月15日

明るいあいさつを
街角から街角へ



市民あいさつ運動



●市民のひろば……MBCテレビ

毎週日曜日の朝8時から15分間放送(ただし、毎月第3日曜日は休み。毎月第4日曜日は朝8時から30分間放送)

●市政の窓……KTSテレビ

毎週土曜日と日曜日の2回放送。土曜日は12時55分から5分間、日曜日は夕方4時55分から5分間放送。

●市政スポット……MBCラジオ

毎週日曜日の「ランチタイム」の中で12時30分頃から5分間放送。

市政の動きをテレビで